

活動記録

80 二〇一七年度活動報告 ◇ 佐々木遥

81 贈答歌会録 ◇ 関寧花

二〇一七年度活動報告

文責：佐々木遙

※○内は担当者

◇四月

一日～二日 新歓ブース設置、貼り紙・ビラ配りなど(辻原)

七日(金) お花見歌会(辻原)

十一日(火) 笹井宏之勉強会・新歓勉強会(暮田)

◇五月

十八日(火) 新歓歌会(暮田)

二十一日(金) 新歓歌会(辻原)

二十五日(火) 新歓歌会(関)

二十八日(金) 新歓歌会(佐々木)

◇六月

六日(土) 歌会・新歓コンパ(辻原)

十九日(金) 歌会(加賀)

二十三日(火) 歌会(佐々木)

◇七月

六日(火) 歌会(谷村)

十六日(金) 歌会(辻原)

二十日(火) 歌会(佐々木)

三十日(金) 歌会(大村)

◇七月

四日(火) 歌会(阿部)

十四日(金) 歌会(小林)

◇八月

一日(火) 歌会(尾崎)

五日(金) 歌会・前期納会(大村)

◇九月

一～三日 学生短歌会合同夏合宿(暮田・紺野)

十四～十五日 連作合評会(佐々木)

◇十月

三日(火) 歌会(関)

十三日(金) 歌会(阿部)

十七日(火) 歌会(関)

二十七日(金) 歌会(阿部)

三十一日(火) 歌会(尾崎)

◇十一月

十日(金) 歌会(阿部)

十四日(火) 歌会(亀山)

二十四日(金) 歌会(佐々木)

◇十二月

八日(金) 歌会(関)

十二日(火) 歌会(尾崎)

十七日(日) 連作合評会(大村)

二十二日(金) 歌会(阿部)

二十三日(土・祝) 贈答歌会(関)

◇一月

九日(火) 歌会(佐々木)

十九日(金) 歌会(大村)

※大雪のため二十三日の歌会は延期

二十六日(金) 即詠歌会(佐々木)

◇三月

一日(木) 非公開サテライト歌会(佐々木)

※ゲスト：東直子氏・法橋ひらく氏

三日(土) 大学短歌バトル(阿部・紺野・染川)

◆贈答歌会録 文責 関寧花

二〇一七年十二月二十三日、早稲田短歌会で贈答歌会が行われた。贈答歌会では事前に告知と贈答募集を行い、贈歌が集まった所で参加者に一首ずつ振り分け答歌を用意してもらう。歌会では贈答二首で一組とし、一人二組ずつ投票と批評を行った。以下は今回寄せられた贈答歌とそれらへの批評の一部である。(参加者…阿部圭吾、大村咲希、金竹羅夢、関寧花、染川嚶実)

贈 不確かな明日を話してばかりいる君の頭に落ちる流星 (阿部圭吾)

答 定まった明日など御免だ今日もまた空想の世界で星打ち返す (金竹羅夢)

贈歌、答歌別々に鑑賞するとそれぞれロマンチックさ、夢見がちさなど作中の「キャラクター」に共通する点はあるものの、ロマンチックさのある贈歌に対して答歌が率直すぎ、それは贈答として成功しているとは言えないという印象。また、贈歌に出てくる「君」と答歌の主体のキャラクターがあまりにも離れているので不自然さが出てしまったのでは、という意見が出た。

贈 ごめんって言えばいいのにいつまでも右折の回数だけ数えてる (関寧花)

答 かたくなな僕らは歩く地球一周してまたここに帰ってこよう (阿部圭吾)

組み合わせとしてはバランスがいい一組。頑固な贈歌主体に寄り添う答歌主体、という関係性が浮き出てくる。贈歌だけを見るとネガティブな印象だが、答歌の「またここに戻ってこよう」というフレーズによってポジティブに変換されている。情景を示す情報の少なさが目立つのが傷。また、贈歌で「右折」と言っているのだから車で進行しているのではないか、答歌で「歩く」と移動手段を限定してしまっているのがちぐはぐではないかとの意見も出た。

贈 射干玉の黒き帳に叫びけり泥土うきの枯木に花や咲かむと (金竹羅夢)

答 花の名を思つてまぶた閉じなさい 眠りをもたらず神の名も夜 (大村咲希)

贈歌の「泥土の枯木に花や咲かむと」に答歌が応答する形の一組。「思つて」「神」など象徴的な言葉が多い、お互いの発話で会話が成立しているのがわからないなどの点から、二首併せて読んでもどのようなやりとりなのかわからず読者の想像が広がらない、という評が出た。しかし贈歌の独自の世界観に引つ張られず答歌の作者が自分の得意なジャンルに引き込んで一組を完成させており、双方のテクニカルな部分が表明されることにもなった。「夜」「枯木」などのワードから「死」のイメージを連想し、「眠り」と言い換えたのも面白い。

贈 歩こうよ ケバブ売りとか実のなる木、変なオブジェを見て話したい(大村咲希)

答 駅前の思想まみれのオブジェならみんなにきずぐすりをくれるけど(染川摩実)

最初は答歌の「きずぐすり」というワードの発想の由来がわからない、という意見が出たが、スマートフォン「ポケモンGO」で入手できる(※)アイテム「きずぐすり」ではないかという発言があり、それで矛盾ないだろうと決着した。贈歌が「ポケモンGO」を想起して詠まれたという確証はないが、それに新たな「ゲーム」という要素を付け足した答歌作者のアイデアが評価された。しかし贈歌と答歌それぞれの行動の意図が食い違っているため、対応しているように見えないという意見も出た。

※……「ポケモンGO」のマップ上に多数存在する施設「ポケストップ」は、半径四十メートル以内に近くと作動し、タップすることで経験値や道具などを入手することができる。「きずぐすり」は戦闘で傷ついたポケモンを癒すための道具。

贈 夕焼けを逆光にして抱かれたわ、真面目くさって影はのびてた(染川嚙実)

答 丘のある街で暮らして笑おうよ年に一度はパーティーをして(関寧花)

贈歌のドラマチックさに答歌が対応しきれていないのでは？ という意見が出た。答歌「丘のある街」はフレーズとして既視感があり、さらに、贈歌が一瞬程度の短い時間の中の感動や興奮を詠んでいるのに対して、答歌は長い時間の中でゆるやかな幸福への期待を詠んでいるため、贈答が呼応していかないのではという意見も出て、総合して贈歌の劇的なイメージに答歌が負けており残念、という印象だった。